

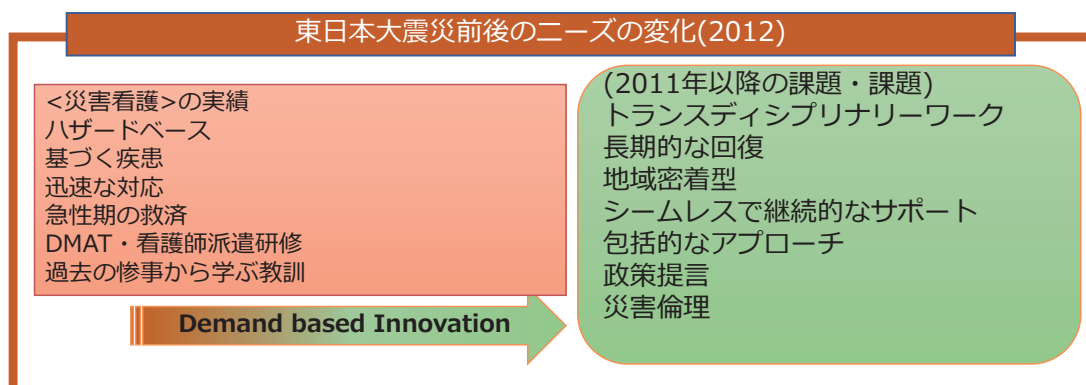
災害看護の学際連携による 防災への貢献と今後の挑戦

○神原咲子

日本災害看護学会
神戸市看護大学

災害看護とは.....

「災害に関する看護独自の知識や技術を体系的にかつ柔軟に用いるとともに、他の専門分野と協力して、災害の及ぼす生命や健康生活への被害を極力少なくするための活動を展開すること」



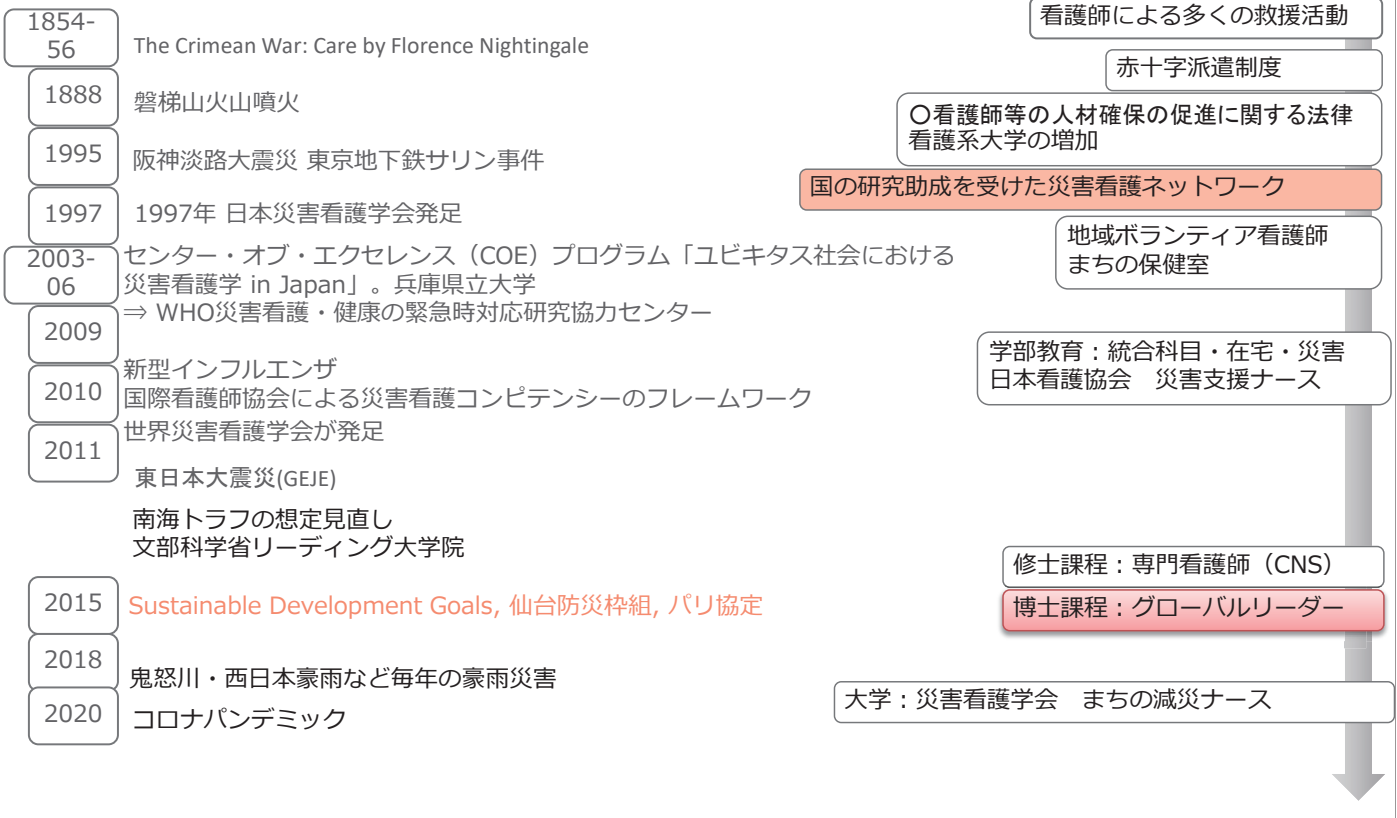
参考:WHOによる災害・健康危機管理
Health Emergency and Disaster Risk Management(2019年)

- イベントベース
- 反応的
- シングルハザード
- ハザードフォーカス
- 単一の部局
- 責任の分担
- 応答の焦点
- コミュニティの計画



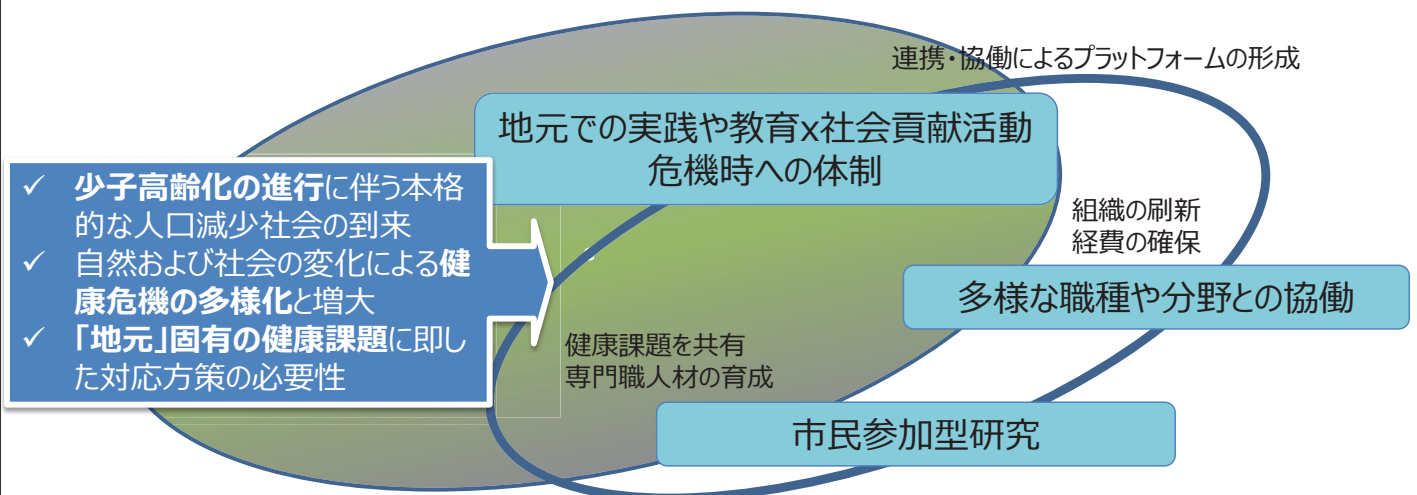
- リスクベース
- 積極的
- オールハザード
- 脆弱性とキャパシティフォーカス
- 社会全体
- 医療システムの共有責任
- リスク管理
- コミュニティとの計画

日本の災害看護と看護人材教育の変遷



「地元創成看護学」

「地元(home community)の人々(population)の健康と生活に寄与すること を目的として、社会との協働により、地域の自律的で持続的な創成に寄与する看護学」



「まちの減災ナース(日本災害看護学会が認定・育成)」

平時から住む地域や働く地域で看護の専門性を活かし、住民と共に防災・減災活動を行い、災害発生時には被災住民の健康と生活を支援する看護職
災害時に迅速かつ的確な対応・避難所の運営サポート・健康相談、医療機関への橋渡しなど、住民の「顔の見える」支援を行う。

災害看護学雑誌から見る 実践報告と研究

多様な地域文化と災害リスクのなかでの 人中心の看護ケアの意思決定と行為

先行要因
(Antecedents)

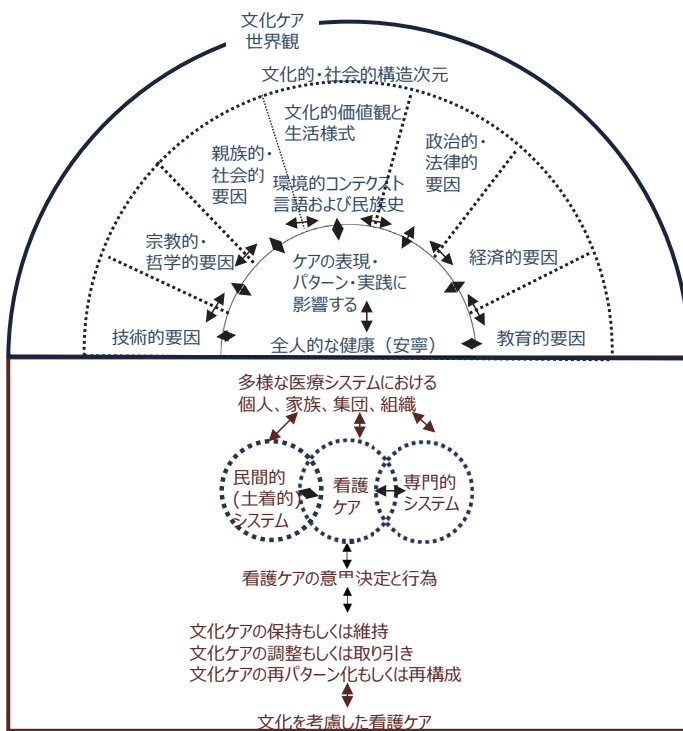
場所: 被災地・地域社会
ハザード・イベント
時間: 災害サイクル

特性/特質
(Attributes)

- 災害看護のスキルと知識を応用する
- 看護の役割と能力を最大化する
- 被災地や被災地へのケアの提供
- 生活、日常生活、健康のニーズに対応
- 専門職や分野を超えたコラボレーション
- 健康リスクの予測と準備

帰結/結果
(Consequences)

- 災害時の健康と生活を守る
- 被害者の人権と尊厳を守る
- 災害リスクの中での希望的な復興をサポート
- 個人とコミュニティのレジリエンスを強化する

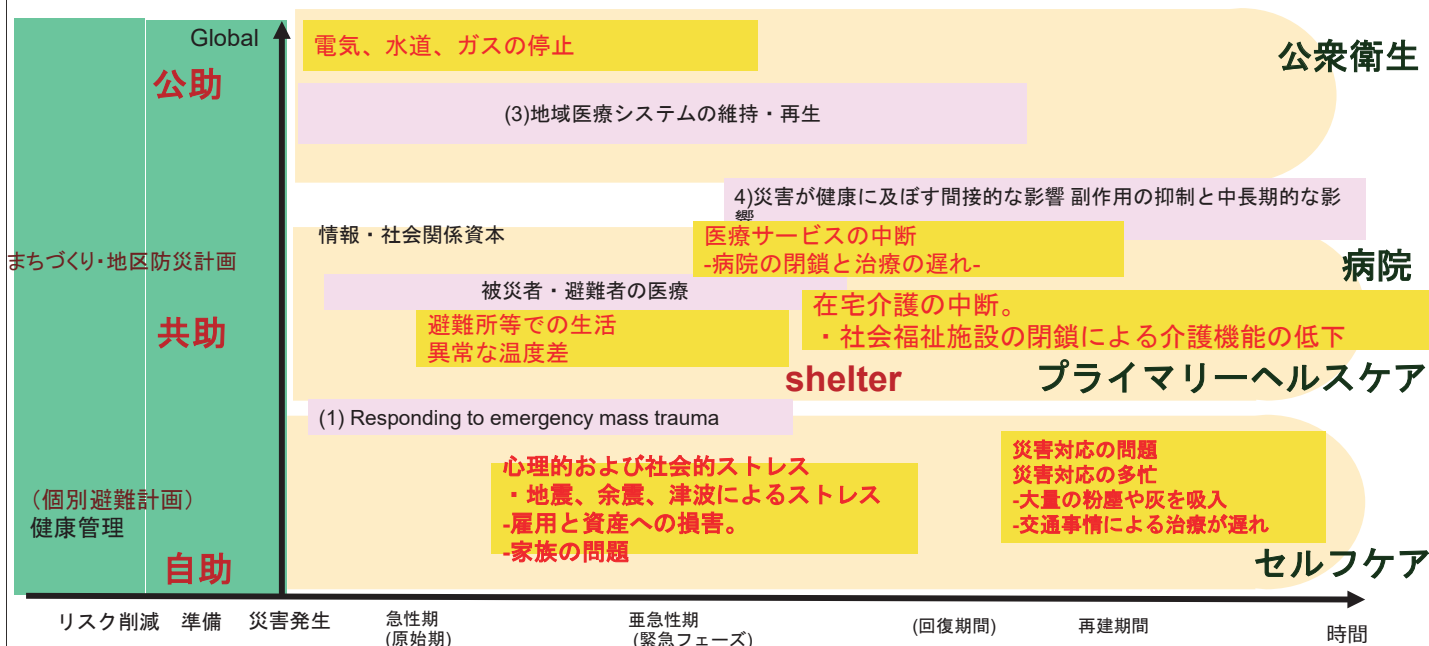


今後の展望：ニーズ（課題）

1. 脆弱な人々の変わりやすいニーズへの対応
2. コミュニティの希薄化と情報のデジタル化が進んだ社会への市民参画
3. 役割分担でなく社会全体多様な人を巻きこんだフレキシブルなシステムの運用と理解ある人材の獲得
4. 危機時に露呈する脆弱性に関わる社会構造の因果関係を分析できるデータの利活用スキル

Kanbara et al (2022) https://doi.org/10.1007/978-3-030-98297-3_1

熊本地震における災害関連死の要因とリスク削減



予防的なケア、事前の健康教育、リスク認識の向上
地域住民の健康状態を把握し、脆弱性を事前に特定。災害時に必要な
医療・ケア情報を日常的に提供し、自己管理能力を高める。

防災計画への看護の視点の組み込み、脆弱性低減のための社会的介入、
次の災害に向けた予防的実践の構築。

災害リスク=ハザード×暴露×脆弱性

対処能力

◆脆弱性は個人の問題ではなく、社会構造的課題

より良い状態へ向けて社会構造や生活様式の。長期的な視点での改善が必要。

災害対応期看護研究の課題と学際研究連への期待

災害前データ △
パイロットスタディ×
情報源→不揃い
仮説熟考×
カウンターパート
予算

倫理的配慮
実行
信頼性
妥当性
復興につながる成果発表



- 居住地の移動
- IT インフラが不確実
- データのアクセシビリティが不明
- 可視化しにくい情報（インサイト）
- 信頼性と妥当性
- 情報を報告する（共有する）クロスカットポイント
- 脆弱な人の見落とし



日本災害看護学会
Japan Society of Disaster Nursing

日本災害看護学会×世界災害看護学会

